



JAPAN PACKAGE DESIGN  
**STUDENT AWARDS**  
2022



## 大賞

### 高齢者のための手の届く電球

大阪成蹊大学 中野亜美

#### 作品コンセプト

高齢社会において、独居老人は「電球の取り替え」が難しい、という見過ごされがちな問題があると気づきました。このパッケージは本体が電球の取り替え補助の役割を果たします。腕を伸ばすだけで簡単に電球を取り替えることができ、安全に高所の作業を行えます。離れて暮らす家族や周囲の人の心の安心にも繋がります。高齢者だけでなく背の低い女性や子供にも有用です。日々の生活の中での不便をパッケージデザインで解決しました。電球を逆さに回転し、取っ手部分を矢印方向に回すだけで電球を簡単に取り換えることができます。取り外す際はパッケージのみを電球にセットし逆回転させると簡単に外せます。パッケージを保管しておけば次回は電球のみを購入すれば環境にも優しいです。容易に解体できるため保管時や捨てる際に場所をとりません。

#### 選評

パッケージデザインの原点は、「使う人への思い」と「生活の彩」です。この作品にはその思いと、使う人に必要な情報が上手にデザインされています。実際の商品化には、機能テストや知財侵害の確認、製造可能性など様々な壁が待っています。しかし、そういった現実的な側面はいったん置いて、パッケージデザインの原点の大切さを起点とするこの作品を多くの審査員が評価しました。(審査員：小川亮氏/JPDA理事長)

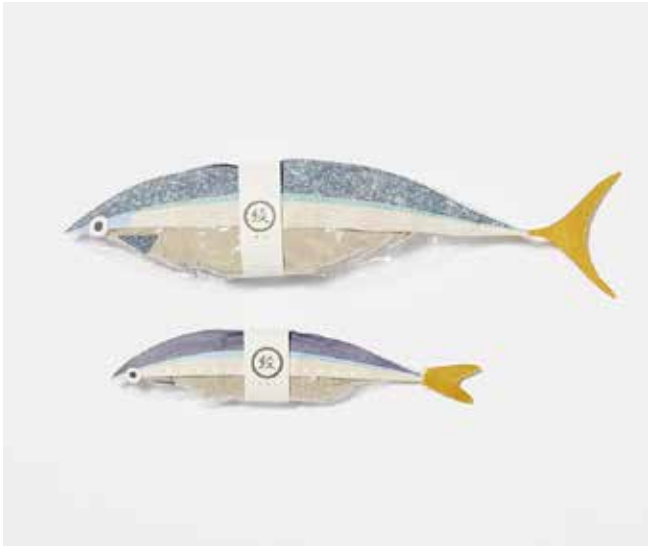
大賞を受賞した「高齢者のための手の届く電球」はパッケージデザインの商品を運ぶ、守る、特徴を伝えるといった基本的な役割を超越して、電球を取り替えることをサポートしてくれる点を評価しました。素晴らしいアイデアです。(審査員：フミ・ササダ氏)

シンプルな構造体を上下逆にするだけで高齢者の抱えている問題点の一つをクリアしようという、単なるパッケージではなく、その可能性を拡張させる発想が完成度や実用性といった観点以上にこのコンペにおいて重要と考え、評価した。(審査員：居山浩二氏)

商品の保護という機能と電球の取替えの補助という機能を、シンプルなパーツのみで構成しようと試みているところ、このようなユーザー視点の気づきをデザインで解決しようと試みているところが素晴らしいと感じた。(審査員：井田紀美子氏)



JAPAN PACKAGE DESIGN  
STUDENT AWARDS  
2022



## 金賞 フジシール財団賞

しぼりざかな

香川大学 石井友規

### 作品コンセプト

つみれは加工食材であり、原材料となる魚自体を目にすることはないので、命を頂いていることを実感しにくい。このことから、魚本来の姿をモデルにして原材料である魚と、消費者をつなぐことを目的としたパッケージをデザインした。また、つみれの形を手で整えることは少し手間がかかる。このことから、絞り袋をモチーフに、手を汚さずに取り出したい分量だけを取り出すことができ、形を整えやすいデザインを考えた。

### 金賞 選評

「美味しそう」と感じさせる。これは食品パッケージに最も大切な要素である。写真を使用していないにも関わらず、鮮度感もあり、まるで泳いでいるかの如く生き生きとし、形状にも無駄がなく完成度の高さを感じる。(審査員:小川裕子氏)

海から獲られた新鮮な魚のつみれのパッケージは、売り場では鮮魚のように、食卓では手を汚さずに絞り出せる絞り器に！海から食卓を繋いだパッケージは秀逸で、食卓が盛り上がる様子が目に浮かびます。(審査員:牛島志津子氏)

親子と一緒にキッチンに立ちながら、すり身が何から出来ているか会話している姿が思い浮かんだ。魚から直に搾り出す行為も楽しいし、店頭でもかなりインパクトがあると思う。購買時から使用時まで、見事な体験デザインの提案となっている。(審査員:石浦弘幸氏)

### フジシール財団賞 選評

加工食品であるつみれを、原材料である魚の姿のデザインで包むことで、「命をいただく」という感謝の気持ちと謙虚さを表現しているという点が素晴らしかった。見た目の新鮮さや美味しさに加え、利便性も兼ね備えた優秀なパッケージデザインだと感じた。(審査員:フジシール財団)



JAPAN PACKAGE DESIGN  
STUDENT AWARDS  
2022



## 金賞

### Tシャツ美術館

嵯峨美術大学 北村海七

#### 作品コンセプト

アートTシャツを販売するお店のパッケージを考えました。美術館という  
と様々な展示や作品を見に行く場所というイメージですが、額縁の中に  
飾るのは一枚のTシャツです。美術館のように、見て感じながらお店の雰  
囲気を楽しめるTシャツのパッケージを考えました。持ち帰った際には  
飾ることや贈り物としても利用でき、Tシャツをそのままアートとして壁に  
掛けられるパッケージです。日常生活の中にアートを取り入れ、人の感  
性と日常をつなぎました。額縁として利用できるパッケージなので、窓付  
きの箱を用い、中のTシャツが見える仕組みです。また、額縁として壁に  
かけられるように箱の後ろに穴がある構造になっています。

#### 選評

ファッション(洋服)という自己表現を目的としたものが第三者に向けた公共性を持った美術作品になるという、中に収めるものの価値を変える力を持ったパッケージという所に強く惹かれました。(審査員:村上雅士氏)

包装が中身と調和し、かつ商品価値を高めている。パッケージデザインとしての佇まいが良いと感じました。(審査員:松井健朗氏)

単にパッケージとして留まらず、その先の行動やコミュニケーションの拡張性を秘めたところと「人の感性と日常をつなぐ」というパッケージデザインの本質とも言える部分へのチャレンジを評価しました。(審査員:渡辺有史氏)



## 銀賞

### polar sugar(ポーラー シュガー)

東京工科大学 國米悠吾

#### 作品コンセプト

地球温暖化の影響による気候変動で、南極の氷は溶け、海面の平均水位は年々上昇しています。この「polar sugar」は、溶けゆく南極の氷と、コーヒーなどに溶けてゆく角砂糖を結びつけ、「地球温暖化に少しでも関心を抱いてほしい」という願いをもって発想しました。コーヒーを一杯飲みながら環境問題について考え、飲み終わったら身近なエコアクションを実践してみたいはかがでしょうか。

#### 選評

東京23区の倍もある「棚氷」が南極で崩壊したという記事を読んだ。白い角砂糖がコーヒー色に染まる様子が、巨大な棚氷が砕けるシーンに重なった。中身と箱の関係が良く考えられており、想像が膨らむデザイン。(審査員: 信藤洋二氏/JPDA副理事長)

温暖化により氷が溶けるという現象を、コーヒーに砂糖という身近なものに置き換え表現した点が良いと感じました。直接的な解決に結びつかなくても、使用することで社会問題について考えるきっかけをくれる良いアイデアだと思いました。(審査員: 山田智晴氏)



## 銀賞

### ホットDog

穴吹デザイン専門学校 小田恵維

#### 作品コンセプト

リードを商品にホットドックをパッケージデザインしてみました。可愛く、美味しそうにコンセプトを作成しました。

#### 選評

思わず笑みがほころぶポップな仕立て、ネーミングも含めて商品をキャラクターに乗せて印象付けているところが面白い。またシンプルでありながらキャラクター、デザインの見せ方の完成度も高い。ロゴが入ったデザインも見たい。(審査員: 井田紀美子氏)

つなぐという精神的なテーマをあえて物理的な解釈で表現するのは、案外勇気がいると思う。しかし、犬、リード、ホットドックが見事にアイデアでつながり、理屈抜きで楽しい提案となっている。飼い主と犬のハッピーな関係も想像できる。(審査員: 石浦弘幸氏)



JAPAN PACKAGE DESIGN  
STUDENT AWARDS  
2022



## 銅賞

### 勝利へ繋ぐ

専門学校 未来ビジネスカレッジ 田島颯也

#### 作品コンセプト

チームを応援するサポーターをターゲットにしたタオルのパッケージデザインです。パッケージをメガホン型にし、タオルを取り出して上蓋と底蓋を外すとメガホンとして使用できるようになります。デザインは日本伝統の応援団の学生服をモチーフにしており、ボタンと布製のハチマキを巻いてあり誰でも応援団になることができます。紙はメガホンとして使用した際に滑りにくく、屋外で使用した際、太陽光を反射しない艶のない質感にしています。タオルやハチマキの色は勝利を呼ぶ赤色になっています。メガホンで大きな声援を送ることで選手の士気が高まり、力となって、勝利へと繋ぐことができます。

#### 選評

つなぐの捉え方が独特で面白いですし、タオルとメガホンという内容もしっかり応援に特化していてターゲットを絞っている点が良いと思いました。学生らしいエネルギーを感じました。造形も綺麗で完成度の高い作品だと思います。(審査員:山田智晴氏)

明快で気持ちの良いアイデアでした!皆が揃いのメガホンを持つ一体感とワクワク感。パッケージという枠を超えた「体験」をデザインしていると思います。軽いタオルのための包材として、凝りすぎでない仕様もGoodです。(審査員:小玉文氏)



## 銅賞

### How to Wrap Five Eggs by Insects

筑波大学 大学院 浜野那緒

#### 作品コンセプト

虫の巣から着想を得た卵のパッケージである。虫の巣は虫による生命を「継ぐ」ための包む行為であり、自然界におけるパッケージデザインの知恵と手法だと捉えた。次の世代に生命を継ぐための3つの省のデザイン(省スペース・省資源・省エネルギー)が最適なカタチをつくることに気づきを得てデザインに反映させた。6種全てにおいて、数の変動にも対応するスタッキングあるいは連結の機能を取り入れ、過剰な装飾や接着剤を用いない最小手数で生まれるカタチの設計を考えた。

#### 選評

日本には、藁を用いた「卵つと」のように、機能と審美性を備えた伝統の包み方がある。この作品には自然界をお手本として、生命を保護する知恵が生かされており、6種の特徴的な形も魅力で、未来の伝統パッケージのようだ。(審査員:信藤洋二氏/JPDA副理事長)

省スペース・省資源・省エネルギーで考えられた卵のパッケージだが様々な形状を考えており発想の豊かさを感じた。接着剤を使っていない点が加点につながったと思う。6種あると書かれているが残りにも興味が湧いた。(審査員:小川裕子氏)



## 銅賞

### 本から文字が溢れ出る 体験でつなぐパッケージ

多摩美術大学 安藤晴南

#### 作品コンセプト

子供の頃、給食や家庭で食卓に上るアルファベット型のパスタに、文字を食べるという不思議さから好奇心を抱いた経験のある人は少なくないと思います。そこで、主に料理を食べる側の子供だけでなく作る側になった大人にも、もう一度パスタが文字の形である楽しさを味わってほしいという思いから、体験に重きを置いて制作しました。さらに会話が生まれ、子供と大人双方の記憶により深く残るものとなるのではないのでしょうか。本のページを模した蛇腹の中にはパスタが入った内袋があります。その内袋の両端はそれぞれ左右の表紙裏に、内袋の口は蛇腹底面に空いた出口に固定されています。本を開くと内袋が広がり出口が開き、振るとパスタが溢れ出る仕組みです。

#### 選評

アルファベット型のパスタが本を開くと溢れ出す、体験の記憶が会話を生むパッケージ。シンプルな2色のグラフィックとこぼれ落ちるパスタを表現したタイポグラフィはどこか懐かしくデザイン性が高く評価された。(審査員:牛島志津子氏)

思わず開きたくなるパッケージ。本の蛇腹とグラフィックが文字を食べるという体験をより一層記憶に残す演出に一役買っている。美味しそうと言うより楽しそうと思わせる人の原体験に訴えた好感度の高いアイデア。(審査員:渡辺有史氏)



**小川亮賞 代々幡牛乳 東京藝術大学 高橋絵**

作品コンセプト

新宿から1駅、渋谷からも徒歩20分ほどの初台、幡ヶ谷、代々木の一帯はかつて代々幡町と呼ばれ、牧場経営が盛んであった。最盛期では約7つの牧場から東京中へと牛乳が供給されていた。現在では消防学校、住宅地と公園、駐車場、スポーツセンターとして土地利用されている4箇所に焦点を当て、4種類のパッケージを展開した。牛乳を飲むという行為で、過去と現在の景観がつながる感覚を味わってもらえるようなデザインを施した。白いグラフィックは、白い牛乳の入った透明瓶に印刷されると馴染んで見えることを利用した。牛乳を飲む前にはかつてあった牧場の景観が、飲んだ後には現在の景観が見えてくる。

**選評** パッケージデザインを生み出す力の源泉の1つに、地域への愛情があると思います。地域への思いがよいデザインを生みだし、地域を元気にします。このデザインはそんな大切なことを思い出させてくれます。しかも新宿から一駅の「代々幡」というのも何とも地域愛を感じさせる選択です。過去と未来を切り口に持ってきたアイデアも秀逸でした。牛乳瓶という、日本人に愛されつづけた容器をそのまま使った潔さも素敵だと思いました。



**信藤洋二賞 22°91'S, 43°02'W 千葉大学大学院 藤森朝子**

作品コンセプト

これはブラックコーヒーのパッケージで、タイトルは収穫地の農園の経緯度です。ラベルは部分的に透明になっており、コーヒーを飲み干すと、色面から星座が浮かび上がります。これは、収穫した農園の収穫期に天頂に現れる星座です。座標という無機質な情報のもとで、コーヒーの味そのものにフォーカスした体験が得られます。コーヒーを飲む行為が星と星をつなぐ行為に、そして星と星をつなぐ行為が、産地と飲む人、収穫されたときと飲む人、そして夜空を見上げる現地の人と飲む人をつなぐパッケージです。

**選評** コーヒーが好きで、最近には気に入った豆を自宅で焙き、フレンチプレスで淹れて愛飲している。休暇を山で過ごす時も、豆は忘れずに持って行き、澄んだ空気の中でコーヒーを味わう。満点の星空の元で飲むコーヒーはまた格別なのだ。この作品は、パッケージデザインがコーヒー文化の道標となり、遠い産地の星空が浮かび上がるという仕掛けで、作り手とつながる提案に魅力を感じた。シングルオリジンの繊細な味が気軽に楽しめるなら、ペットボトルも大歓迎だ。

**フミ・ササダ賞 5つの醤油 香川大学 伊勢田乃愛**

作品コンセプト

香川県の名産品の一つとして、木樽で作る小豆島の醤油が挙げられる。現在木樽を使用して作られる醤油は、全国でたった1%だけになっている。これを後の世代に繋げていきたいという願いを込めて、「5つの醤油」を制作した。また、醤油は発酵される時間によって味や濃さが5段階に変化するため、白醤油から溜醤油に繋がっていくという意味も込めて、一度に5種類の醤油を味わえるようにした。機能性については、醤油のパッケージは使い切りやすいように、少量が入った個包装にし、蓋のイラストの部分を取り除くことで醤油が出る仕組みになっている。個数は、定番である濃口醤油が3袋、その他の醤油が2袋ずつになっている。

**選評** 醤油のパッケージデザインに挑戦したことを評価いたしました。醤油や調味料のデザインは美味しくみせることが大変難しく、ブランドロゴや商品名を大きく表記してデザインを完成させることが多いのですが、この作品では伝統的な製法である木樽で作る醤油を5種類に分類し、どの醤油が食材とベストマッチするかを考えさせ、使う喜びを消費者に与えられるデザインであると感じました。小さく可愛い木樽のパッケージは食卓に置いても魅力的なデザインです。



**居山浩二賞 Fresh& (フレッシュェンド) 千葉大学大学院 古賀翔太郎**

作品コンセプト

Fresh&は自分好みの素材でつくるスムージーです。ユーザーはグラフィックだけでなく、パッケージによって促される行為によって素材の新鮮さを体感することができます。まずは、収穫です。その瞬間の気分や体調に合わせて味・量・栄養素などの異なるフレーバーを選び取ります。次に、ヘタを取り皮を剥くようにパッケージフィルムを剥がします。そして、それらを積み重ねストローで差し繋げれば、まるで新鮮な素材をそのまま飲んでいるかのような感覚に至ります。接合部分には粘着性があり、繋ぎ目を密着させます。フィルムを剥がした状態のFresh&をそれぞれコップに搾り出して、ストローを使わずに飲むことも可能です。容量は一つ当たり110ml、高さは65mmで、2個つなげた場合は110mm、3個の場合は155mmです。ボトルの表面には凹凸がありそのままの素材感を引き立てます。

**選評** 味わいや栄養素など、様々な組み合わせを一つの容器内で混ぜ合わせるのではなく、それぞれを連結させることでミックスさせるというユニークなアイデアと、何よりもラブリーなフレッシュさを感じさせるビジュアルに魅かれた。実際に商品化すると機能面や素材の選択等々、その難易度は相当なものであろうことは想像に難くないが、もしもカタチにすることができたなら、大人にも子供にも喜ばれそうな、ハッピーなモノになるだろう。



**村上雅士賞 ファミスナー 専門学校 未来ビジネスカレッジ 河口いさ**

作品コンセプト

チャックで繋がるお弁当箱にしました。家族をキャラクターに見立て、家族で繋がるというイメージで制作しました。立体感をつけて優しい顔に仕上げたかったので刺繍で顔を作りました。様々な組み合わせができます。万が一、親と喧嘩してもチャックで繋げて仲直りすることができます。

**選評** 大量生産を前提とした大人っぽい顔つきをしたパッケージが全体を占める中、手芸作品のような極めてパーソナルなこの作品が異彩を放っていました。家族をお弁当箱に置き換え物理的に繋げていくというこの作品は肩の力が抜けた不思議な魅力を持っていて一つずつ刺繍でできたなんとも言えない表情がイラストレーションとしても良い味出てます。

## 山田智晴賞 What's Your Name 専門学校 浜松デザインカレッジ 大石美緒

### 作品コンセプト

「外国人観光客に、言語のお土産を。~What's your name~」外国人観光客に、より日本を楽しんでもらうため、ひらがな50音をペットボトルにデザイン。あいうえお順に馴染みのない方でも分かりやすいよう、ひらがなをアルファベット順に配列。言語のお土産を持ち帰ってもらい世界と日本をつなぐきっかけになってほしいという思いで制作しました。キャップ部分のシールをめくるとJapanese nameが書かれており、旅行中はその名前呼び合うことができます。



**選評** シンプルですが、実用的で良いアイデアが詰まっていると感じます。このアイデアをお土産などではなく、誰にとっても身近なペットボトルのパッケージに起用したことが良いと思いました。特にJapanese nameで呼びあうことで、旅行中は日本人になりきれようアイデアが面白いです。海外の方が日本にいる間その生活に馴染むことができ、より日本に親しみを持ってもらえる、外国人観光客と日本を繋ぐ素敵なパッケージだと思います。

## 石浦弘幸賞 OUCHI ONSEN 日本大学 高梨訓平

### 作品コンセプト

外国人観光客の皆さんに、日本文化である温泉を、自国に帰っても体験していただきたいという思いから、入浴剤のパッケージをデザインしました。檜風呂をモチーフにすることで、文字ではなく形で伝えるように意識しました。また温泉のミニチュアという見た目が、お土産屋さんでも目を引き、興味を持つきっかけになるように作りました。入浴剤を使うと、お湯が減っていくように見えるため、少しの寂しさと共に、また日本に行きたいと思ってもらえるきっかけになるようにしました。



**選評** これをバスルームで見るたびに、毎日のお風呂が温泉気分を楽しめそう。デザインのポイントは、お湯の吹き出し口。これがあることで、ただの紙箱がグッと温泉らしい表現になっている。効果効能の情報を詰め込んだ入浴剤が多い中、文字情報が一切ないのに見事に温泉がもたらす癒しを表現している。シート状の入浴剤がなくなる頃には、また温泉に行きたくなるに違いない。

## 井田紀美子賞 一口山 専門学校 桑沢デザイン研究所 玉城結羽

### 作品コンセプト

「生産地と消費者を結びつけるパッケージ」をコンセプトに、一口サイズのおにぎりのパッケージを製作しました。全国の多様な米の品種の中からピックアップしたおにぎりは、米を品種で買うという魅力と消費量増加による米農家への取引量増加、支援活動に役立ってます。パッケージには手頃さが魅力のおにぎりの側面と、1000年以上前から重要な食物として人々を支えてきた米が、今一度どのような環境との関わり合いを経て我々の元にやってくるのかを視覚的に伝えるものに仕上げました。内部には4コのおにぎりを梱包可能であり、背部を開封することによっておにぎりを取り出すことができる。おにぎりひとつひとつの包装紙は、包装紙と同様のパターンを施したラベルによって固定している。上部に飛び出しているサインは、おにぎり内の具材などを示すサインとなっており、正面の表示が見えない場合でも種類を判別することができるようになっている。



**選評** 生産地と消費者を結ぶというコンセプト、それを丁寧にデザインに落とし込んでいる工夫に好感を覚えた。米の消費量減少の問題など背景にあるテーマとしては難しいものだが、それをデザインによって軽やかにサポートできる可能性を示唆した作品。実際に食べながら視覚的に見たくなる工夫、中の包み紙まで丁寧な作り込みがうかがえる。またシンプルな白を生かしたデザイン構成にキャッチーな具材をあらわすサインが際立っており、店頭映えも期待できる美しいデザインだ。

## 牛島志津子賞 制服をつなぐ 大阪成蹊大学 松下翼

### 作品コンセプト

私は、リサイクル制服を次世代に繋ぐパッケージを考えました。制服を全て揃えるのは高価でかつ資源の無駄な消費にも繋がっています。制服一つ一つを単品での販売を可能にすることで消費者により安価な状態で制服を揃えることができ、資源の消費を抑えることができます。また、リサイクル商品は汚いなどのイメージを持っている方もいるためパッケージングの状態から既に制服が見える状態でのパッケージデザインを考えました。補足 制服パッケージの右下のスタンプには制服の品質を5段階で示している服のマークと制服の情報を消費者に一目で理解できる記載方法を考えました。



**選評** SDGs が浸透していく現代のなかで、物を捨てずに大切に繋いでいく方法を考えた作品「制服をつなぐ」は白地のパッケージに制服の形、製品の状態評価もわかりやすく表現した、おしゃれで清潔感のあるパッケージが、古着への抵抗感なども無くし新たな循環を生み出していく可能性を感じさせてくれた。



## 小川裕子賞 toilet 神戸芸術工科大学 銭谷春花

### 作品コンセプト

「つなぐ」トイレトーパー 消耗品のストックがインテリアとして機能すれば、限られたスペースの中でもより心地よい空間にできるのではないかと思います。消耗品とインテリアを「つなぐ」ものになっています。コロナによる新しい日常の為に、トイレトーパーを替えるという名前のない家事が楽しくなるような仕掛けを提案します。大人だけでなく、トイレデビューの子供や、1人でトイレに行くのが怖い子供が笑顔になれるような仕掛けです。この商品は表と裏にグラフィックが印刷がされており、2ロールをつないで組み合わせることでデザインが完成する仕組みになっています。同じ柄のものが残っても、デザインがつながるようになっています。4個入り1セットで、4通りの組み合わせがあります。持ち帰りの袋が透明になっている事で、広告の役割も果たします

**選評** この作品を学生作品という目では見れなかった。本当に商品として世の中にあつたらどんなに楽しいだろうと「プロの目」で見ていた。削ぎ落とされたクスクスと笑えるキュートなイラスト。頭に浮かぶのは自宅のトイレにこれが置いていたなら、飛び出た水のラインをつい合わせてしまおうだろう。そしてちょっと笑顔になるだろう。そんな無意識の幸せが世の中の人々を幸せにできるのだ。それこそがパッケージデザイナーの真骨頂なのではないだろうか。



## 小玉文賞 NO WAR WATER 多摩美術大学 中西英里奈

### 作品コンセプト

コンセプトは「人を生かす銃」です。ロシアとウクライナのニュースがきっかけでした。戦争に反対する人たちの心をつなぎ、戦争反対の声をフラットに届けることは出来ないか考えました。人間の体のほとんどは水でできており、水は人が生きていく為に欠かせない事が出ません。「人を殺さない銃であり人を生かす水」という商品を持つことにより戦争反対を訴える一つのアイテムになってくれれば良いなという気持ちで今回の商品を製作しました。

**選評** 日々の暮らしを「ちょっと幸せに」というアイデアが多い中で、鋭い表現が目を引きました。パッケージを単なる包材ではなく、メッセージを打ち出す媒体として捉えた実験作だと思います。ただし再考してほしいのは、戦争反対を訴えるパッケージが果たして銃の形状で良いのか？ということ。例えば銃で悲惨な目に遭った人が、果たして銃の形をした飲料水を飲みたいと思うのでしょうか？センシティブなテーマを扱う場合には、相応に考え抜かれた表現が必要です。



## 松井健朗賞 重さをシェアする米袋 大阪成蹊大学 佐野彩芽

### 作品コンセプト

「重いものは男性」「買い物は女性」という偏見に疑問を感じ、重さをシェアする米袋を作りました。人と人をつなぎ、負担の平等について考えるきっかけになるとと思います。

**選評** 「重さをシェアする」という新しい視点と構造的なアイデアを持った上で、人と人との自然なコミュニケーションが想像できる点に魅力を感じました。



## 渡辺有史賞 創造の架け橋 多摩美術大学 馬場陸斗

### 作品コンセプト

挿絵作家が小説家に万年筆を贈る為のギフトパッケージを考えました。挿絵作家と小説家は絵と言葉という表現手法の違いはあれど、1つの同じ創造世界を共有するという点できてもきれない関係にあると思います。パッケージ中心部には挿絵作家が小説家の創造世界からイメージした切り絵によるイラストレーションが施されており、これは小説家がペンをとる時に切り絵の世界観からインスピレーションを受け、自身の思い描く創造の世界へとスムーズに繋がる架け橋となる効果を期待しています。このパッケージを通して挿絵作家と小説家の2者で同じ創造世界を共有することで、絵と文章の繋がりが深まりより強固で力強い創作物が生まれることを願っています。

**選評** 開けた瞬間、中の世界に一気に引き込む圧倒的な切り絵イラストに魅かれました。パッケージは手にした時から中身に出会うまでの体験価値を上げてくれるもの。その意味ではこの作品が一番際立っていたように感じました。1枚のイラストではなく、あえて幾重にも重ねた切り絵で表現した絶妙な抽象表現に想像力が掻き立てられます。それだけにプレゼン資料の画像だけでなく、是非とも実物で拝見したかった作品です。



## 入選作品



JAPAN PACKAGE DESIGN  
STUDENT AWARDS  
2022

Barolo From PIEMONTE in 1990	香川大学	相庭祥吾
47都道府県ご当地ふりかけ	多摩美術大学	林珠希
文化の起源	専門学校日本デザイナー学院	北村萌香
キョロコン	北海道芸術デザイン専門学校	内藤 美空
ぐるぐるメディシンスパーキング	日本デザイン福祉専門学校	嶋中もこ
Bloom tea	嵯峨美術大学	竹田景子
Family CACAO	穴吹デザイン専門学校	横山紫乃
アップルペーパー	穴吹デザイン専門学校	濱崎未有
マトリョーティカ	穴吹デザイン専門学校	北原千風
米ばっぐ	穴吹デザイン専門学校	市橋亜子
ストローの木	北海道芸術デザイン専門学校	伊達崎奨
『温めておきました』	愛知県立芸術大学	吉村梨花
増えるぜ!男性ホルモン	大阪成蹊大学	山本光憂
よーよーかん	京都女子大学	松阪ふう
Nature ink(tsutsumu)	東京工科大学	胡驍宇
Cupid Heart	多摩美術大学	居宿央佳
信長さんへのおくりもの	HAL名古屋	古田優馬
hold hands	東北芸術工科大学	庄子暖乃
RENSA	多摩美術大学	荊木あすか
Wiled-Wide	京都精華大学	上門伶奈
Home sweet home	多摩美術大学	荊木あすか
アイヌの伝統 サツチェブ	北海道教育大学岩見沢校	竹生ゆらの
物語のある香水紙	香川大学	千秋華
イクラナーンゾヤ	穴吹デザイン専門学校	港菜奈子
一家団らん 家族もなか	香川大学	戸川桃花
Confeito	東洋大学	新郷まゆら
TOOTHPASTE	香川大学	中川花菜
ももし	穴吹デザイン専門学校	盛原奈純
「todok」(トドク)	岡山県立大学	垣内 琳果
百蝶 100 Beautifully	静岡文化芸術大学デザイン研究科	王 粲
30CHEW	大阪成蹊大学	安達日世里

## 入選作品



JAPAN PACKAGE DESIGN  
STUDENT AWARDS  
2022

にわたりの卵ぼーろ	香川大学	山本実歩
干物星人	尾道市立大学	畑唯菜
Vitamin	香川大学	鹿嶋みちる
SUMITSU	長野平青学園	百瀬陽香
DECOPASTA	多摩美術大学	郷原綾夏
くるカン	多摩美術大学	郷原綾夏
てまりいと石けん	香川大学	正瑞陽奈子
ぐるぐるレンサ	専門学校未来ビジネスカレッジ	原海斗
おはようドリンク	専門学校日本デザイナー学院	小豆澤京
oishi	福岡デザイン専門学校	木下柊
HUMBURGER MIX	穴吹デザイン専門学校	石本万依夏
べじたフル	穴吹デザイン専門学校	三隅祐佳
socks with...	多摩美術大学	荻田桜子
紅玉 ーるびー	サレジオ工業高等専門学校	中釜はるひ
Once a week Mackerel	大阪成蹊大学	眞田陽心
なぞなぞ弁当	大阪成蹊大学	久松朱音
飾るつまようじ	香川大学	神吉茜
Art U	多摩美術大学	田邊帆乃香
手を繋ぐパッケージ ～HANDSHAKE BOX～	横浜美術大学	萠澤梨緒
SENBONVIKI CHOCOLATE	香川大学	吉森日菜
EAT NOW	大阪成蹊大学	松永香花
受験生と応援する人を繋ぐ 晴れようかん	京都女子大学	竹原早菜
てふと	多摩美術大学	横澤武竜
人の心をつなぐ、動かすことによって模様が変わる 手ぬぐいのパッケージ	多摩美術大学	成瀬太陽
TEAFRIENDS	倉敷市立短期大学	賀来竜ノ輔
想いをつなぐ、歴史をつなぐ、金継ぎパッケージ	桑沢デザイン研究所	砂原拓哉
a・no・co	多摩美術大学	田邊帆乃香
バランスゲームを楽しむチョコレートパッケージの提案	多摩美術大学	鈴木里彩
Gummy Flower	多摩美術大学	居宿央佳
ホオズキの処方箋	専門学校日本デザイナー学院	富永優香